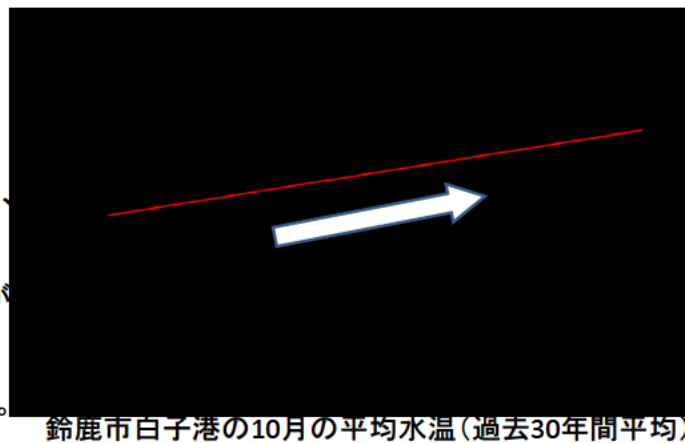


高水温耐性に優れた黒ノリ新品種「みえのあかり」

新品種開発のきっかけ

- ・ 黒ノリ養殖は10月上旬ごろから始まる冬の養殖業です。
- ・ 伊勢湾の表層水(鈴鹿市白子港)は1980年代と比較して、水温が上昇傾向にあります。
- ・ 高水温化が進めば、黒ノリ養殖の開始時期(23℃以下)が遅くなり、生産量が低下する恐れがあります。
- ・ 業界から「高水温に強い品種の開発」の要望がありました。



鈴鹿市白子港の10月の平均水温(過去30年間平均)

高水温耐性品種「みえのあかり」開発の経緯

- ・ 「みえのあかり」は、養殖されている黒ノリ葉体から研究室内で選抜育種(細胞選抜)を繰り返すことで作出しました。
- ・ 三重県の水産植物として初めて平成25年3月25日付で品種登録されました(登録番号第22538号)。

普及状況

- ・ 現在、県内漁場で「みえのあかり」が養殖品種のひとつとして使用されています。



「みえのあかり」養殖状況

「みえのあかり」の評価

- ・ 年内生産期(高水温時)に生長が良好です。
- ・ 通常品種に比べて収穫量が多いです。
- ・ 「みえのあかり」を用いて製造した板ノリ製品の品質は良好です。(入札時の等級分けで「上位等級」に選別されることが多い)



「みえのあかり」板ノリ製品



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812